

グローバルコース 1 年生【地域国際交流】（第 1 回目－2019）

1. 日 時

6 月 1 1 日（火） 15:30-17:30

2. 日 程

プログラム日程

回数	開催（予定）日時	参加外国人数(人)	内容
第 1 回	6 / 1 1（火） 15:30-17:30	中国 6 韓国 2 ベトナム 1 フランス 1 エチオピア 1	・オープニング ・自己紹介 ・ディスカッション ・Coffee Break と外国人ゲストと懇親
第 2 回	6 / 1 8（火） 15:30-17:30		
第 3 回	9 / 1 7（火） 15:30-17:30		
第 4 回	9 / 2 4（火） 15:30-17:30		

3. 目 的

地域国際交流は、1 年生で行うグローバル・スタディーズの中心として位置づけられている。その目的は、日本の高校生は「内向き志向」で国が推進する留学プログラムにも消極的であるとの動向から、身近な地域に在住する外国人と交流することで外国人との接し方や考え方などを学ぶために取り入れられている。さらに、多文化共生を学ぶために水戸市や近郊地域の抱える諸問題（環境、特産物の開発、観光開発、行政サービス）を外国人と同じ目線で考え、解決する手段を導き出す課題探求型学習にもなっている。今年で 4 年目を迎える 1 年生の地域国際交流には、水戸市内在住の外国人ゲストとして中国、フランス、ベトナム、エチオピア、ポーランドなど出身国のことなる外国人が継続して参加している。また期間は、6 月に 2 回、9 月に 2 回外国人ゲストとのディスカッションを行い、大学や研究施設・行政などへのフィールドワークを行うほか、課題解決のための実践活動を行って 1 月に成果報告のためのプレゼンテーションを行うことになっている。その研究活動は、大学生がゼミで行っている研究に勝とも劣らない研究成果が毎年プレゼンテーションされ、新聞にも取り上げられて高い評価を得ている。

4. 高大連携の試み

グローバル教育は高校 3 年間で完結し、グローバル化が進展する国際社会で通用する人材を育成することはできない。高校 3 年間の様々なグローバル学習を通してグローバル教育、グローバル人材の育成の基礎基盤を構築し、次の大学教育に引き継ぐことが期待される。そこで、今年度から常磐大学で留学生に日本語教育を教授されている飯野准教授の協力を得て、常磐大学の外国人留学生と相互交流を行っている。本校で行う「地域国際交流」に飯野准教授と中国人、

韓国人、ベトナム人など7名の留学生が参加して本校生徒と水戸市の「行政サービス」「観光」「環境」「食文化」の4分野に分かれてディスカッションを行った。多文化共生教育を目標に高校生と留学生が同じ目線で問題点を探し出し、議論することで問題解決に導くことに意義がある。将来、外国人と同じ会社やプロジェクトで仕事をする際の基盤育成が期待されている。今後は、本校生が常磐大学を訪問し、大学で実施されている関連分野の授業などを見学して、高大の連携教育を模索する。



あいさつする常磐大学 飯野准教授



外国人ゲストも自己紹介



初参加の常磐大生も自己紹介



Coffee Break で外国人ゲストと懇親



緊張の中にも楽しい会話が進みます



大学で中国語を教える高さんは4年目の参加です

5. 第1回目の内容

15:30に啓明生26名、毎年参加している外国人5名、常磐大学の留学生7名が揃い、開講イベントが行われました。はじめに外国人ゲストの自己紹介があり、続いて各グループ

のリーダーがボードに研究分野とメンバーを書いて紹介しました。そのあと **Coffee Break** でお茶とお菓子を食べながら外国人ゲストと懇談して親交を深めました。

各グループはディスカッション会場（教室）に分かれて、グループワークが開始されました。はじめはグループ内で自己紹介を兼ねたアイスブレイクを行いました。1年生にとっては2時間外国人と1つのテーマについて話し合う体験は初めてなので、緊張と戸惑いの様子が伝わってきました。7つのグループに啓明生3～4人、外国人2～3人が入ってディスカッションが始まりました。昨年地域国際交流を経験した2年生が各グループにファシリテーターとして加わり話し合いをリードしました。昨年も参加した外国人ゲストは2年生の顔を覚えていてくれて懐かしむ様子が見られました。1年生は日本語で外国人ゲストと話し合いをしますが、高校生は外国人ゲストに対して早口になってしまう傾向があるので、2回目からは注意が必要なようです。



外国人相手に長い時間話すのは初めての1年生



外国人ゲストの方が積極的です



常磐大学留学生からもたくさん意見が出しました



指導役の2年生は余裕の表情です

6. 1回目のディスカッションを終えて＝参加者の感想

◆生徒の感想

- ・緊張していて何を話すかをメモしたノートをなかなか見られなかった。自分たちの何倍もの意見を外国人ゲストに言われて圧倒された。（A君）
- ・事前に何を話すかを書いたノートを作ったがあまり役に立たなかった。自分たちの研究テーマについての知識を頭に詰め込んでおいて、相手の話に合わせて出していくのが話し合いだと気づいた。（K君）

- ・グループの中にゲストと積極的に話す人とあまり話さない人がいた。グループの打ち合わせでは、準備してきた話を順番に話す予定だったがその通りにいかなかった。次回までにもう一度ディスカッションの仕方を打ち合わせる必要があると感じた。(Kさん)

◆外国人ゲストの感想

- ・4年間毎年参加しているが、毎年生徒のレベルが上がっているように感じた。話も積極的でよく勉強をしているようです。私の国の高校1年生はこんなに上手に外国人とディスカッションできる子はいないように思います。来週が楽しみです。(Kさん)
- ・今年は難しい研究分野になってしまったのでこちらが緊張しました。高校生達はよく事前学習していて話がスムーズに進みました。今年も彼らはきっとすばらしい研究ができると思います。一生懸命お手伝いするつもりです。(Lさん)



グローバルクラスの雰囲気ですね



生徒も留学生も真剣にディスカッション